

観光社会資本の事例

テーマ	現代と調和する歴史的道「寺町通り」
【施設の状況写真】	
	
<p>○歴史的風情が漂う寺町通り(北山地区) 南部鉄器を使った道路照明や自然石の歩道を使ったことと無電柱化により、築地塀に囲まれた、落ち着いた雰囲気のある寺町として生まれ変わった。</p>	
「施設の利用写真」	
	
<p>○沿道に設けられたポケットパーク(左)と歩道(右) 観光客や市民に、ひとときの憩いの場を提供している。</p>	
【観光資源としての利用状況】	
<p>盛岡市寺町通り(現一般国道 455 号、旧主要地方道盛岡岩泉線)に隣接する寺院は 10 寺を数え、昭和 61 年度には落ち着いた雰囲気のある寺院群地区として盛岡市の「都市景観建築賞」を受賞、昭和 62 年度には「日本の道 100 選」にも選定されました。</p> <p>長さ 400m 余り、幅 16m の寺町通りは、南部鉄器の街路灯や石畳風の歩道、寺院の塀が続く絶好の散策道となっており、盛岡駅から 1.5km のこの地区には数多くの名所があることから来訪者も多く、更なる観光資源としての利用を進めています。</p>	

テーマ	現代と調和する歴史的道「寺町通り」
【社会資本の基礎データ】 ○名称 盛岡市寺町通り(現一般国道 455 号 旧主要地方道盛岡岩泉線) ○所在地 岩手県盛岡市名須川町 ○事業名 都市計画街路事業下の橋寺山線 ○事業主体 岩手県 ○事業期間 昭和 48 年～昭和 62 年	
【社会資本の役割・効果】 ○地域間の交流・連携機能 盛岡市寺町通りは、県沿岸北部と県都を直結する重要な路線としての役割を担っています。都市計画街路事業に着手される以前は、郊外に整備されたニュータウンの影響もあって、交通量が増大の一途にあり、道路の改善について、地域で度重なる話し合いがなされてきました。その結果、都市計画街路事業に着手され、トラフィック機能の強化を図りつつ、古都盛岡のイメージを損なわない潤いのある寺町通りが実現されました。 ○観光資源の活用 この地域には岩手の名のおこりと伝えられる「鬼の手形」、これをとどめる三個の巨石を祀る三ツ石神社をはじめ、天然記念物モリオカシダレザクラ、菩提樹の大木、むかで姫の墓等数多くの名所があることから、観光ルートに取り入れる等、観光資源としての活用が図られています。	
【位置図】  <p>※点線:新幹線</p>	
【関連ホームページ】 (財)岩手県観光協会 岩手ナチュラル百貨店HP参照 関連URL: http://www.iwatetabi.jp/detail.php?id=03201034	

